

Cisco UCS ローカル ゾーン分割の設定例

内容

[概要](#)

[対象者](#)

[テスト環境](#)

[ローカル ゾーン分割の設定](#)

[FCスイッチングモードの設定](#)

[ローカル ゾーン分割と既存のアップリンクに関する留意事項](#)

[ストレージ クラウド内で VSAN を作成する](#)

[直接接続のファイバ チャネルおよび FCoE ストレージを設定する](#)

[新しいサービス プロファイルでローカル ゾーン分割を設定する](#)

[Cisco UCS Manager GUI を使用して vHBA イニシエータ グループを表示および変更する](#)

[Cisco UCS Manager GUI を使用してサービス プロファイルのローカル ゾーンを表示する](#)

[Cisco UCS Manager GUI を使用してグローバル ローカル ゾーンを表示する](#)

[CLI を使用してローカル ゾーンを表示する](#)

[ゾーン名の解読](#)

[Cisco UCS ローカル ゾーン分割の制限事項](#)

[詳細情報](#)

内容

[概要](#)

[対象者](#)

[テスト環境](#)

[ローカル ゾーン分割の設定](#)

[FCスイッチングモードの設定](#)

[ローカル ゾーン分割と既存のアップリンクに関する留意事項](#)

[ストレージ クラウド内で VSAN を作成する](#)

[直接接続のファイバ チャネルおよび FCoE ストレージを設定する](#)

[新しいサービス プロファイルでローカル ゾーン分割を設定する](#)

[Cisco UCS Manager GUI を使用して vHBA イニシエータ グループを表示および変更する](#)

[Cisco UCS Manager GUI を使用してサービス プロファイルのローカル ゾーンを表示する](#)

[Cisco UCS Manager GUI を使用してグローバル ローカル ゾーンを表示する](#)

[CLI を使用してローカル ゾーンを表示する](#)

[ゾーン名の解読](#)

[Cisco UCS ローカル ゾーン分割の制限事項](#)

[詳細情報](#)

概要

は Cisco Nexus® 5000 シリーズ スイッチがアップストリームに存在しなくてもダイレクト アタッチド ストレージ アレイをゾーン分割できるローカル ゾーン分割機能が導入されています。このドキュメントでは、Cisco UCS ローカル ゾーン分割を準備する方法について説明し、Cisco UCS のトポロジ全体におけるローカル ゾーン分割機能の留意事項を示し、ローカル ゾーン分割の設定方法と機能設定後のローカル ゾーン分割の表示および変更方法を示します。

対象者

このドキュメントは、Cisco UCS 2.1 で導入された Cisco UCS ローカル ゾーン分割機能を理解して導入したいと考えているシステム アーキテクトおよびエンジニアを対象としています。Cisco UCS とシスコのネットワーク製品に関連する Fibre Channel over Ethernet (FCoE)、LAN、ファイバ チャネル (FC)、ストレージの業界標準に関する基本機能や一般概念の知識を前提としています。

テスト環境

テスト環境には次のものが含まれています。

- Cisco UCS
 - Cisco UCS 6248UP 48 ポート ファブリック インターコネクト X 2
 - Cisco UCS 2208XP ファブリック エクステンダ I/O モジュール (IOM) が 2 台
 - 1 x Cisco UCS 5108 ブレード サーバシャーシ
 - Cisco UCS 仮想インターフェイス カード (VIC) 1240 モジュール型 LAN on Motherboard (mLOM) を搭載した Cisco UCS B200 M3 ブレード サーバが 1 台
- ストレージ
 - 8 Gbps ファイバ チャネル アダプタを搭載した EMC VNX5700

ローカル ゾーン分割の設定

注:Cisco UCSローカルゾーン分割機能は現在、FCまたはFCoEアップリンクが存在するときはサポートされません。先に進む前に、FC および FCoE アップリンクを無効化し、削除してください。

FCスイッチングモードの設定

Cisco UCS ローカル ゾーン分割機能を使用するには、Cisco UCS ファブリック インターコネクトがデフォルトの FC エンドホスト モードではなく FC スwitchング モードに設定されている必要があります。

Cisco UCS Manager のナビゲーション ウィンドウの [SAN]タブを選択し、ナビゲーション ツリーの最上位の [SAN] ノードを選択します。メイン ウィンドウの [SAN Uplinks]タブを選択し、[Port and Port Channels] ウィンドウと [SAN Pin Groups] ウィンドウを表示します。

メイン ウィンドウの [SAN Uplinks Manager]リンクをクリックします。[SAN Uplinks Manager] ウィンドウが表示されます。

[SAN Uplinks Manager] ウィンドウの [SAN Uplinks] タブを選択します。

注: FC アップリンクモードを変更すると、両方のファブリックインターコネクトがただちにリブートし、10 ~ 15 分間の停止が発生します。アップリンク モードの変更は、計画されたメンテナンス時間中にのみ行ってください。

[Uplink Mode] フィールドに、Cisco UCS が現在 FC エンドホスト モードと FC スイッチング モードのどちらになっているかが示されます。Cisco UCS がすでに FC スイッチング モードになっている場合は、[Cancel] をクリックし、次のステップに進みます。

Cisco UCS が FC エンドホスト モードになっている場合は、[Set FC Switching Mode] をクリックして、アップリンク モードを FC スイッチング モードに変更します。Set FC Switching Mode 警告ウィンドウが表示されるので、Yes をクリックして続行します。

Set FC Switching Mode success ウィンドウが表示されるので、OK をクリックします。

両方の Cisco UCS ファブリック インターコネクトが再起動します。

ローカル ゾーン分割と既存のアップリンクに関する留意事項

Cisco UCS ローカル ゾーン分割機能は現在、FC または FCoE アップリンクが存在するときはサポートされません。Cisco UCS の直接接続ストレージでは、現在次の設定がサポートされています。

- アップリンクゾーン分割による直接接続ストレージ：この構成では、FC または FCoE ストレージがファブリックインターコネクトに直接接続され、Cisco MDS 9000 ファミリーまたは Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチを介して Cisco UCS の外部でゾーン分割が実行されます。この設定では、ローカル ゾーン分割はサポートされません。
- ローカルゾーン分割による直接接続ストレージ：この設定では、FC または FCoE ストレージがファブリックインターコネクトに直接接続され、Cisco UCS ローカルゾーン分割機能を使用してゾーン分割が実行されます。既存の FC または FCoE アップリンク接続をシャットダウンする必要があります。Cisco UCS では現在、アクティブな FC または FCoE アップリンク接続と Cisco UCS ローカル ゾーン分割機能の同時使用はサポートされていません。

アップリンクが以前に接続されるかアクティブになり、この時点でシャットダウンまたは削除された場合は、Cisco UCS ファブリック インターコネクトのコマンドライン インターフェイス (CLI) で次に示すコマンドを実行して、無効または不要になったノースバウンドの Cisco MDS 9000 ファミリーおよび Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチから以前継承したゾーンを削除できます。

既存のゾーンを表示するには、ファブリック インターコネクトの CLI から次のコマンドを入力します。

```
<#root>
```

```
FIELD-TME-DELMAR-A#
```

```
connect nxos
```

```
FIELD-TME-DELMAR-A(nxos)#
```

```
show zone
```

```
zone name MM-Server1 vsan 1
pwwn 20:93:59:04:14:45:01:4f
pwwn 20:93:59:04:14:45:01:5e
pwwn 50:0a:09:81:87:99:99:c9
pwwn 50:0a:09:82:87:99:99:c9
zone name MM-Server2 vsan 1
pwwn 20:93:59:04:14:45:01:2f
pwwn 20:93:59:04:14:45:01:3f
pwwn 50:0a:09:81:87:99:99:c9
pwwn 50:0a:09:82:87:99:99:c9
```

```
FIELD-TME-DELMAR-A(nxos)#
```

```
exit
```

既存の VSAN 名を表示するには、次のコマンドを入力します (このリストは、VSAN 名に基づいて不要なゾーンをプルーニングするために必要です) 。

```
<#root>
```

```
FIELD-TME-DELMAR-A#
```

```
scope fc-uplink
```

```
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink #
```

```
show vsan
```

```
VSAN:
```

Name	Id	FCoE VLAN	Fabric ID	FC Zoning	Overall status
default	1	138	Dual	Disabled	Ok
FC-Stats-A	300	300	A	Disabled	Ok
FC-Stats-B	301	301	B	Disabled	Ok
FCoE-VSAN100	100	100	A	Disabled	Ok
FCoE-VSAN101	101	101	B	Disabled	Ok

```
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink #
```

exit

既存のゾーン分割を削除するには、プルーニングが必要な VSAN ごとに次のコマンドを入力します。

最初に「デュアル モード」VSAN として作成された VSAN に対しては、次のコマンドを入力します。

<#root>

FIELD-TME-DELMAR-A#

scope fc-uplink

FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink #

scope vsan default

Note

: "default" is the name of VSAN0001, replace "default" with appropriate VSAN names

FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink/vsan #

clear-unmanaged-fc-zones-all

FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink/vsan* #

commit-buffer

FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink/vsan #

exit

FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink #

exit

FIELD-TME-DELMAR-A#

最初にファブリック A またはファブリック B で作成された VSAN に対しては、次のコマンドを入力します。

<#root>

FIELD-TME-DELMAR-A#

scope fc-uplink

```
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink #  
  
scope fabric a  
  
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink/fabric #  
  
scope vsan FC-Stats-A  
  
        (replace with appropriate vsan name)  
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink/fabric/vsan #  
  
clear-unmanaged-fc-zones-all  
  
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink/fabric/vsan #  
  
commit-buffer  
  
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink/fabric/vsan #  
  
exit  
  
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink/fabric* #  
  
exit  
  
FIELD-TME-DELMAR-A /fc-uplink #  
  
exit  
  
FIELD-TME-DELMAR-A#
```

両方のファブリック インターコネクトの各 VSAN 名に対して、これらの手順を繰り返します。

コマンドの処理が完了したら、各ファブリック インターコネクトにログインし、NXOS スコープに接続して show zone コマンドを入力することにより、ゾーンが削除されたことを確認します。

ストレージ クラウド内で VSAN を作成する

ストレージ クラウド コンテナ内でファブリック A とファブリック B の両方に VSAN を作成する必要があります。ローカル ゾーン分割をサポートするために作成した VSAN は、SAN クラウド コンテナ内で重複しないようにしてください。

注：ストレージクラウドコンテナにVSANが作成されていない場合、直接接続ストレージポートにVSANを割り当てることはできません。

Cisco UCS Manager のナビゲーション ウィンドウの [SAN]タブを選択し、[Storage Cloud] ノードを選択します。メイン ウィンドウの [VSANs]タブを選択し、[All] タブを選択します。

メイン ウィンドウで、右側にある緑色の [+] ボタンをクリックします。[Create VSAN] ウィンドウが表示されます。

次のようにフィールドに入力します。

- Name:VSANの名前を入力します。
- FCゾーン分割：設定を有効に変更します。
- Fabricオプションボタン: Fabric Aを選択します。
- VSAN ID：ファブリックAに作成するVSANのVSAN IDを入力します。
- FCoE VLAN：このVSANにマッピングするVLANのFCoE VLAN IDを入力します。

[OK] をクリックします。[Create VSAN] の成功を示すウィンドウが表示されます。[OK] をクリックします。

ファブリック B に対して同じプロセスを繰り返します。

メイン ウィンドウで、右側にある緑色の [+] ボタンをクリックします。[Create VSAN] ウィンドウが表示されます。次のようにフィールドに入力します。

- Name:VSANの名前を入力します。
- FCゾーン分割：設定を有効に変更します。
- Fabricオプションボタン: Fabric Bを選択します。
- VSAN ID：ファブリックAに作成するVSANのVSAN IDを入力します。
- FCoE VLAN：このVSANにマッピングするVLANのFCoE VLAN IDを入力します。

[OK] をクリックします。[Create VSAN] の成功を示すウィンドウが表示されます。[OK] をクリックします。

直接接続のファイバ チャネルおよび FCoE ストレージを設定する

ローカル ゾーン分割では、直接接続の FC または FCoE ストレージと、FC または FCoE ストレージ ポートの設定が必要です。

注：現在、直接接続FCおよびFCoEの認定ストレージベンダーは、EMC、日立データシステムズ、およびNetAppに限定されています。最新の認定ベンダーおよびモデルについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps10477/prod_technical_reference_list.htmlで最新のCisco UCS/ハードウェア互換性リストを参照してください。

Cisco UCS Manager のナビゲーション ウィンドウで、[Equipment]タブをクリックします。[Equipment]ノード、[Fabric Interconnects] ノード、および [Fabric Interconnect A (primary)] ノードを順に展開します。直接接続の FC または FCoE ストレージ デバイスが接続されているモジュールを展開します（このドキュメントでは、ポートがすでにイーサネットではなく FC として設定されていることを前提としています）。次に、[FC Ports]ノードを展開し、ストレージが接続されている FC ポートを選択します。メイン ウィンドウの [General]タブを選択し、ポートの [Physical Display] ペインを表示します。

メイン ウィンドウの [Actions] セクションで、[Configure as FC Storage Port]をクリックします。確認ウィンドウが表示されたら、Yesをクリックします。成功を示すウィンドウが表示されたら、OKをクリックします。

メイン ウィンドウの [Properties] セクションで、[VSAN]ドロップダウン メニューをクリックし、

ポートを前の項で作成した VSAN に設定します。

注：ストレージクラウドコンテナ内でVSANが以前に作成されていない場合、直接接続ストレージポートに割り当てるドロップダウンメニューでそのVSANを使用することはできません。

ポートを目的の VSAN に設定したら、[Save Changes]をクリックします。成功を示すウィンドウが表示されたら、OKをクリックします。

ファブリック インターコネクト A およびファブリック インターコネクト B に接続された直接接続ストレージ ポートごとに、前の手順を繰り返します。

新しいサービス プロファイルでローカル ゾーン分割を設定する

ローカル ゾーン分割は、新しいサービス プロファイルと既存のサービス プロファイルのどちらにも適用できます。ここでは、新しいサービス プロファイルでのローカル ゾーン分割の作成について説明します。

注：サービスプロファイルの作成時にローカルゾーン分割を作成する場合は、Create Service Profile(expert)ウィザードを選択する必要があります。

注：このドキュメントは、読者がサービスプロファイルの作成プロセスを理解していることを前提としています。ここで説明する手順は、Create Service Profile(expert)ウィザードの「ストレージ」セクションと「ゾーン分割」セクションに関するものです。このドキュメントでは、その他のセクションの手順は含みません。

エキスパートウィザードを使用してサービスプロファイルを作成します。ストレージセクションに到達するまで、必要に応じてすべてのセクションを完了します。

[Storage] セクションが表示されたら、次のように設定を行います。

- ・ ローカルストレージ：ローカルストレージを使用する場合は、必要に応じてストレージを設定します。
- ・ SAN接続の構成方法を選択してください: Expertオプションボタンを選択します。
- ・ World Wide Node Name：ドロップダウンメニューからWWNN Poolを選択します。

ウィンドウの下部にある緑色の+ボタンをクリックして、仮想ホストバスアダプタ(vHBA)を作成します。「Create vHBA」ボタンです。

ウィンドウが表示されます。

次のように設定を行います。

- ・ 名前:vHBAの名前を入力します。
- ・ World Wide Port Name：ドロップダウンメニューからWWPN Poolを選択します。
- ・ Fabric ID:Fabric Aを選択します。
- ・ Select VSAN：ストレージクラウドコンテナ内に作成されたVSANを選択します。
- ・ Pin Group：ローカルゾーン分割を使用しているため、<not set>を選択します。
- ・ Persistent Binding: DisabledまたはEnabledを選択します。
- ・ Max Data Field Size：必要に応じて、デフォルトのサイズを使用するか、サイズを設定します。

- アダプタポリシー：必要に応じてポリシーを設定します。
- QoSポリシー：必要に応じてポリシーを設定します。

設定が完了したら、[OK]をクリックします。

前述の手順を繰り返します。2番目のvHBAの緑色の+ボタンをクリックして、ファブリックBを選択します。

各 vHBA の作成が完了したら、[Next]をクリックします。

ウィザードの [Zoning] セクションが表示されます。このセクションで、ローカル ゾーン分割を設定します。ローカル ゾーン分割の作成は、複数の段階からなるプロセスです。ローカル ゾーン分割の主な構成要素は次のとおりです。

- ストレージ接続ポリシー：このコンテナは、vHBAイニシエータグループに割り当てられるFCターゲットエンドポイントを設定します。このコンテナでは、vHBA イニシエータグループのタイプが Single Initiator Single Target と Single Initiator Multiple Targets のどちらであるかも指定します。
 - Single Initiator Single Target：このタイプは、各ゾーンに単一のvHBA WWPNと単一のストレージターゲットWWPNが含まれることを指定します。

例：vHBA_0、Storage_Target_1、Storage Target_2

```
Zone1: vHBA0
      Storage_Target_1
Zone2: vHBA0
      Storage_Target_2d
```

- Single Initiator Multiple Targets：このタイプは、各ゾーンに複数のストレージターゲットWWPNを持つ単一のvHBA WWPNが含まれることを指定します。

例：vHBA_0、Storage_Target_1、Storage Target_2

```
Zone1: vHBA0
      Storage_Target_1
      Storage_Target_2
```

- FCターゲットエンドポイント：この構成要素は、ファブリックインターコネクに直接接続されたFCまたはFCoEストレージターゲットのWWPNを定義します。
- vHBAイニシエータグループ：このコンテナは、ストレージ接続ポリシーで定義されたストレージターゲットエンドポイントWWPNとともにvHBAイニシエータWWPNを含む「ゾーン」です。

注：先に進む前に、ストレージターゲットエンドポイントのWWPNを使用できるようにしてください。

[Select vHBA Initiator Groups]ウィンドウの下部にある緑色の+ボタンをクリックします。[Create vHBA Initiator Group]ウィンドウが表示されます。

[vHBA Initiator Group] の各フィールドに次のように入力します。

- 名前: vHBAイニシエータグループの名前を入力します。

注:vHBAイニシエータグループ名は最大16文字で構成できます。

- Storage Connection Policy : ドロップダウンメニューからSpecific Storage Connection Policyを選択します。

注: 以前に作成したストレージ接続ポリシーを[ストレージ接続ポリシー]ドロップダウンメニューから選択することもできます。しかし、このドキュメントでは、このサービス プロファイル専用のストレージ接続ポリシーを作成します。

ドロップダウン メニューから [Specific Storage Connection Policy] を選択すると、[Create vHBA Initiator Group] ウィンドウが拡張され、ストレージ接続ポリシーを作成するための追加のフィールドが表示されます。

次のようにフィールドに入力します。

- Zoning Type : このフィールドで、Single Initiator Single TargetまたはSingle Initiator Multiple Targetsを選択します。これらの 2 つのオプションの違いは、前の例に示したように、[Single Initiator Single Target] ではストレージ ターゲット エンドポイントごとに別個のゾーンが作成されるのに対し、[Single Initiator Multiple Targets] ではすべてのストレージ ターゲット エンドポイントを含む 1 つのゾーンが作成されます。サービス プロファイルの作成が完了した後は、GUI と CLI のどちらの出力でも、これらの結果が示されます。

このドキュメントでは、[Single Initiator Single Target] の横にあるラジオ ボタンをクリックします。

注: デフォルトのゾーン分割タイプは、Single Initiator Single Targetです。

- FCターゲットエンドポイント: このペインには、ストレージターゲットエンドポイントのWWPNが追加されます。FC Target Endpointsペインの右側にある緑色の+ボタンをクリックします。Create FC Target Endpointウィンドウが表示されます。

次のようにフィールドに入力します。

- WWPN: このフィールドには、ファブリックインターコネクトAに接続されているストレージターゲットエンドポイントのWWPNが表示されます。
- 説明: ストレージターゲットエンドポイントの説明を入力します。画面イメージでは、ストレージ モデル (VNX5700) とサービス プロセッサの名称 (SPA-10) が入力されています。
- Path: ストレージターゲットエンドポイントが接続されているファブリックインターコネクトに対応するパスを選択します。
- VSANの選択: ドロップダウンメニューから、以前に設定したVSANを選択します。

設定が完了したら、[OK]をクリックします。

この手順では、ファブリック A (ファブリック インターコネクト A に接続したストレージ ターゲット エンドポイント、および作成してファブリック A に割り当てた VSAN) を主に取り上げます。作成してファブリック A に割り当てた vHBA にゾーン分割するストレージ ターゲット エンドポイントごとに、これらの手順を繰り返します。

次の例では、EMC VNX5700 ストレージを使用します。EMC VNX テクノロジーにより、サービス プロセッサ A (SP-A) とサービス プロセッサ B (SP-B) のそれぞれに、両方のファブリック に分散された複数のポートがあります。より具体的に言うと、この例では、SPA-10 と SPB-10 が Cisco UCS ファブリック インターコネクト A に物理的に接続され、SPA-11 と SPB-11 が Cisco UCS ファブリック インターコネクト B に物理的に接続されています。

次のウィンドウは、ストレージ ターゲット エンドポイント SPA-10 (50:06:01:62:47:24:30:ec) と SPB-10 (50:06:01:6a:47:24:30:ec) が Local_Zone_A という名前の vHBA イニシエータ グループに追加され、どちらもファブリック インターコネクト A に接続されていることを示しています。

[OK] をクリックします。

[Zoning] ウィンドウが開き、先ほど作成した vHBA イニシエータ グループが表示されます。次に、vHBA を vHBA イニシエータ グループに追加する必要があります。この手順で、ホスト イニシエータをストレージ ターゲットに「ゾーン分割」します。

ファブリック A で作業しているため、[vHBA イニシエータの選択] セクションで fc0 (vHBA0) をクリックします。この選択が強調表示されます。

次に、[Select vHBA Initiator Groups] セクションの Local_Zone_A をクリックします。これで、これが強調表示されます。

fc0 (vHBA0) と Local_Zone_A の両方が強調表示されると、[Select vHBA Initiators] セクションと [Select vHBA Initiator Groups] セクションの間にある [Add To] ボタンがアクティブになります。

[Add To] ボタンをクリックします。

fc0 (vHBA0) の設定が Local_Zone_A vHBA イニシエータ グループに表示されます。

これで、fc0 (vHBA0) とストレージ ターゲット エンドポイントを含むローカル ゾーンが定義されました。

ファブリック B に対して前の手順を繰り返します。Local_Zone_B を作成し、ファブリック インターコネクト B に接続されたストレージ ターゲット エンドポイントを作成し、パス B を指定し、以前にファブリック B で作成された VSAN を選択します。

作成してファブリック B に割り当てた vHBA にゾーン分割するストレージ ターゲット エンドポイントごとに、これらの手順を繰り返します。

設定が完了すると、[Zoning] ウィンドウは次の画面イメージのようになります。

これで、ローカル ゾーン A とローカル ゾーン B が定義されました。[Next] をクリックします。

[Create Service Profile (expert)] ウィザードの [Server Boot Order] ページに進みます。

注：このドキュメントでは、ローカルブートの設定方法とSANからのブートの設定方法をすでに理解していることを前提としています。

注:SANからのブート構成では、ストレージターゲットエンドポイントのWWPNが前述のローカルゾーン分割手順で設定されたストレージターゲットエンドポイントと同じである場合、サービスプロファイルの「サーバのブート順序」セクションで指定されたストレージターゲットエンドポイントからゾーンが自動的に作成されるため、重複するゾーンが作成されます。

[Create Service Profile (expert)] ウィザードの残りのセクションが完了したら、[Finish]ボタンをクリックして新しいサービス プロファイルを保存します。

Cisco UCS Manager GUI を使用して vHBA イニシエータ グループを表示および変更する

完成したサービスプロファイルでvHBAイニシエータグループを確認または変更するには、Cisco UCS ManagerのメインナビゲーションウィンドウでServerタブを選択し、ナビゲーションツリーでServersノード、Service Profilesノード、Rootノード（または他の組織コンテナ）の順に展開してから、サービスプロファイルを選択します。Cisco UCS Manager のメイン ウィンドウの [Storage] タブを選択し、[vHBA Initiator Groups] タブを選択します。以前にサービス プロファイルの作成プロセスで作成した vHBA イニシエータ グループが Cisco UCS Manager のメイン ウィンドウに表示されます。

このウィンドウ内で vHBA イニシエータ グループを表示および変更できます。既存の vHBA イニシエータ グループを表示するには、グループの名前をクリックします。vHBA イニシエータ グループの詳細が画面下部の [Details] セクションに表示されます（特定のストレージ接続ポリシーの詳細を表示するには、[Details] 画面の右側にあるスクロール バーを使用します）。

vHBA イニシエータ グループ名をクリックすると、ウィンドウの右側にあるアクション ボタン（ゴミ箱と [Modify] ボタン）がアクティブになります。vHBA イニシエータ グループをサービスプロファイルに追加するには、緑色の [+] ボタンをクリックします。既存のvHBAイニシエータグループを変更するには、緑色の[+]ボタンの下にある[変更]操作ボタンをクリックします。既存のvHBAイニシエータグループに関するその他すべての詳細は、ウィンドウの[詳細]セクションで変更できます。

Cisco UCS Manager GUI を使用してサービス プロファイルのローカル ゾーンを表示する

注：ゾーンがファブリックインターコネクトでアクティブになるのは、サービスプロファイルがハードウェアに関連付けられている場合だけです。サービス プロファイルがハードウェアに関連付けられていない場合は、[FC Zones] タブや CLI にゾーンが表示されません。サービス プロファイルとハードウェアの関連付けが解除されると、以前にファブリック インターコネクトでアクティブ化されたゾーンが非アクティブ化され、[FC Zones] タブや CLI からゾーンが削除されます。

Cisco UCS Manager内からサービスプロファイルに対して作成されたローカルゾーンを表示するには、Cisco UCS ManagerのメインナビゲーションウィンドウでServerタブを選択し、ナビゲーションツリーでServersノード、Service Profilesノード、Rootノード（または他の組織コンテナ）を展開してから、サービスプロファイルを選択します。Cisco UCS ManagerのメインウィンドウでFC Zonesタブを選択します。サービスプロファイルに関連付けられたゾーンのリストが表示されます。

注：このサービスプロファイルのローカルゾーンリストでは、すべてのゾーンが重複しています。前述のように、これは [Zones] ページでゾーンが作成され、同じイニシエータとターゲットがブート ポリシーに設定されているときに発生します。

Cisco UCS Manager GUI を使用してグローバル ローカル ゾーンを表示する

この Cisco UCS ドメインで作成されたローカル ゾーンをグローバルに表示するには、ナビゲーション ウィンドウの [SAN]タブを選択し、ナビゲーション ツリーの最上位の [SAN] コンテナを選択します。Cisco UCS のメイン ウィンドウの [VSANs]タブを選択し、[FC Zones] タブを選択します。この Cisco UCS ドメインで作成されたすべてのローカル ゾーンのリストが Cisco UCS Manager のメイン ウィンドウに表示されます。

CLI を使用してローカル ゾーンを表示する

Cisco UCS ファブリック インターコネクトの CLI から NXOS スコープを使ってゾーンを表示できます。

セキュア シェル (SSH) または Telnet を使ってファブリック インターコネクトの CLI にログインします。

CLI プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
<#root>
```

```
FIELD-TME-DELMAR _A #
```

```
connect nxos
```

```
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2012, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under license.
Certain components of this software are licensed under the GNU
General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU Lesser General
Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each such license is
available at http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php
```

```
FIELD-TME-DELMAR _A (nxos)#
```

```
show zone
```

```
zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_1_Local_Zoning_fc0 vsan 200
```

```
pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b
pwwn 50:06:01:62:47:24:30:ec

zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_2_Local_Zoning_fc0 vsan 200
pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b
pwwn 50:06:01:6a:47:24:30:ec

zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_3_Local_Zoning_fc0 vsan 200
pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b
pwwn 50:06:01:6a:47:24:30:ec

zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_4_Local_Zoning_fc0 vsan 200
pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b
pwwn 50:06:01:62:47:24:30:ec
FIELD-TME-DELMAR _A (nxos)#
```

show zone コマンドの結果が表示されます。現在、このシステムにはこのドキュメントで作成したサービス プロファイルのローカル ゾーンのみが含まれているため、Single Initiator Single Target 形式で各ゾーンが表示されます。

これは、サービス プロファイルでこのオプションが選択されているためです。

Single Target Multiple Targets が選択されている場合、show zone コマンドの結果は次のように表示されます。

```
zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_1_Local_Zoning_fc0 vsan 200
pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b
pwwn 50:06:01:62:47:24:30:ec
pwwn 50:06:01:6a:47:24:30:ec

zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_2_Local_Zoning_fc0 vsan 200
pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b
pwwn 50:06:01:62:47:24:30:ec

zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_3_Local_Zoning_fc0 vsan 200
pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b
pwwn 50:06:01:6a:47:24:30:ec
```

このリストでは、最初のゾーンに3つのWWPNが表示されています。vHBAイニシエータのWWPN(pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b)と、ストレージターゲットの2つのWWPN (pwwn 50:06:01:62:47:24:30:ecおよびpwwn 50:06:01:6a:47:24:30:ec) です。

次の2つのゾーンは、Single Initiator Single Target です。これらのゾーンは、ブート ポリシーで指定されたストレージ ターゲットのために Cisco UCS が自動的に作成したものです。前述のように、これらのゾーンは重複しています。Single Initiator Multiple Targetゾーンで十分ですが、Cisco UCSゾーン分割構成は現在このように設計されています。

WWPN がログインされているかどうかの情報とともにゾーンを表示するには、次のコマンドを入力します。

<#root>

```
FIELD-TME-DELMAR_A(nxos)#
```

```
show zone active
```

```
FIELD-TME-DELMAR_A (nxos)# show zone active
zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_1_Local_Zoning_fc0 vsan 200
* fcid 0xcf0001 [pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b]
* fcid 0xcf00ef [pwwn 50:06:01:62:47:24:30:ec]

zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_2_Local_Zoning_fc0 vsan 200
* fcid 0xcf0001 [pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b]
* fcid 0xcf01ef [pwwn 50:06:01:6a:47:24:30:ec]

zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_3_Local_Zoning_fc0 vsan 200
* fcid 0xcf0001 [pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b]
* fcid 0xcf01ef [pwwn 50:06:01:6a:47:24:30:ec]

zone name ucs_FIELD-TME-DELMAR_A_4_Local_Zoning_fc0 vsan 200
* fcid 0xcf0001 [pwwn 20:ca:00:25:b5:00:00:1b]
* fcid 0xcf00ef [pwwn 50:06:01:62:47:24:30:ec]
```

このリストには、ログインされているアクティブなゾーンと WWPN が表示されます (ログインされている WWPN の fcid 値の前にアスタリスク (*) が付いています)。

ゾーン名の解説

次のゾーン名について考えます。

```
zone name ucs_ FIELD-TME-DELMAR_A _1_Local_Zoning_fc0 vsan 200
```

この名前は、次のように解析できます。

- ucs : これはCisco UCSローカルゾーンです。FIELD-TME-DELMAR_A : このゾーンは、Fabric Interconnect A上のCisco UCSドメインFIELD-TME-DELMARにあります。
- 1 : これはゾーン1です。ゾーンには、1から始まる番号が順番に付けられます。
- Local_Zoning : サービスプロファイル名です。
- fc0 : これは、ファブリックAに接続されたサービスプロファイル内のvHBA名です。

Cisco UCS ローカル ゾーン分割の制限事項

次の最大値に注意してください。

- ゾーンの最大数:VSANあたり8,000、ファブリックあたり合計8,000。
- サービスプロファイルごとのターゲットポートの最大数:64。

詳細情報

『Cisco UCS Manager GUI 構成ガイド』の「ファイバ チャネル ゾーン分割の設定」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10281/products_installation_and_configuration_guides_list.html

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。